

『わび茶の研究』輪読会

佐藤 妙珠

(人間禅京葉支部)

平成22年5月、「禅フロンティア」とともに始めました『わび茶の研究』(芳賀幸四郎著)輪読会(通称茶プレ)について報告いたします。

1 活動状況

活動場所

東京都台東区谷中にある、^{たくぼく}擇木道場の禅堂です。擇木道場は地の利が良く日暮里駅にも近いので、参加者には大好評でした。

日 時

毎月第4週目の土曜日、8:45~9:45に実施いたしました。

輪読会を実施した日は、平成22年5月から平成23年3月まで、計11回でした。日時が固定していたので覚えやすかったです。

輪読会の後、輪読会に参加した方々は参禅会にも参加されました。また、同日午後1時から「禅フロンティア」が実施されています。

講 師

ほうこうあんしゅんたん
葆光庵春 潭総裁老師

活動内容

輪読会は読み手が毎回二人で、房総の沖野元禮居士と小川道心居士が担当いたしま



『わび茶の研究』
芳賀幸四郎著

した。張りのある凜とした声が禅堂に響き、自然と聞き手の姿勢が正されました。

その日の文章の区切りの良いところで輪読を止めて、話し合いをいたしました。ご意見やご質問、感想を聞きます。その過程で、講師の老師から説明とお言葉があります。禅語も多くありますので、老師のお言葉に参加者は聞き入ってしまいます。

輪読会は1時間なので話が盛り上がり先には進めず、次回に続きを輪読することにしていました。

平成22年度に輪読した項目は、次のとおりです。

22年5月29日(土) 千利休とその時代：安土桃山時代の茶道

22年6月26日(土) 千利休とその時代：利休の切腹とその時代

22年7月31日(土) 千利休とその時代：「利休」の意味

22年8月28日(土) 千利休とその時代：『宗湛日記』について

22年9月25日(土) 近世茶道の展開：近世茶道の成立と古典復興

22年10月30日(土) 近世茶道の展開：予楽院のその茶趣・茶風
(前半)

22年11月27日(土) 近世茶道の展開：予楽院の人とその茶趣・茶風
(後半)

22年12月25日(土) 茶と禅：禅僧点描 道元の禅と永平寺、大徳寺の禅(前半)

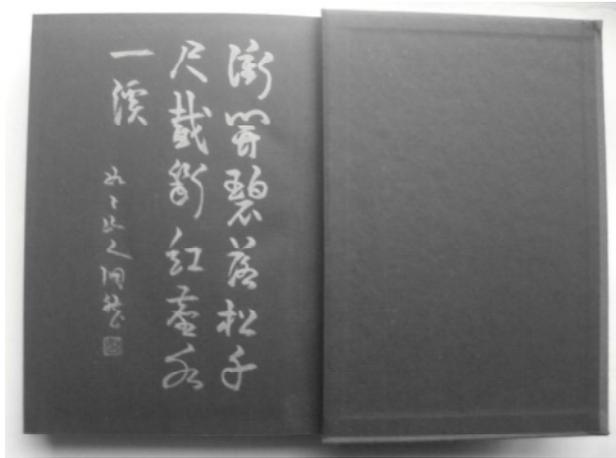
23年1月29日(土) 茶と禅：禅僧点描 大徳寺の禅(後半)、一休宗純

23年2月26日(土) 茶と禅：禅僧点描 沢庵宗彭

23年3月26日(土) 茶と禅：禅僧点描 白隠慧鶴

3月26日は22年度最後の輪読会なので、全員の感想を述べ合いました。一人では読みきれない難しい言葉と禅語が多いので、輪読会を通じて少し理解ができて良かった等の感想が多くありました。また、2月と3月に輪読した項目は剣道と関係があり、興味深く参加できたと

碧落を衝（びやくらくをしょう）開す（ひらく） 松千尺
 紅塵を截断す（こうじんをせつだん） 水一溪（みづいつせき）
 如々山人洞然



いう声がありました。

本年度は「茶と禅：禅僧点描」の途中で終わりましたので、次年度の平成23年5月には、「茶と禅：禅僧点描」の「一休と養叟との反目」から輪読をいたします。奮ってご参加ください。

『わび茶の研究』輪読会に毎回参加される方は、固定化してきました。

参加者は、近隣支部の茶道をされている方と茶道に興味をお持ちの方、芳賀幸四郎先生の大ファン・剣道家・一般居士・禅子です。毎回14～二十数名の参加があり、メモを取りながら老師の説明に聞き入っておられました。読みを通して如々庵洞然老師のお人柄に触れることもあり、時間を忘れてしまう程でした。

2 著者紹介

芳賀幸四郎先生（如々庵洞然老師）（1908年～1996年）

東京教育大学名誉教授。文学博士。日本史学者。裏千家淡交会 関東第一地区第一支部長。



芳賀洞然老師(平成8年)

昭和9年両忘庵釈宗活老師に入門、一夢庵大峽竹堂老師・耕雲庵立田英山老師に参じられた。人間禅師家。平成8年帰寂。

著書

『芳賀幸四郎歴史論集』、『千利休』、『三條西実隆』、『わび茶の研究』、『新版一行物』、『禅のこころ・茶のこころ』、『禅入門』、『墨跡大観』、『五燈会元鈔講話』。歴史教科書も多数書かれている。

3 『わび茶の研究』について

この本は、わび茶の歴史とその理念・創成期の茶道・千利休とその時代・近世茶道の展開・茶と禅から成っています。

「わび茶の歴史とその理念」では、茶の湯の歴史とわびの系譜について書かれています。ここは、輪読会では割愛いたしました。

「創成期の茶道」では、宗珠の片影と茶室の系譜・創成期茶道の精神・ある茶人の履歴について書かれています。ここも、輪読会では割愛いたしました。

「千利休とその時代」。ここは、輪読会で輪読していました。

「近世茶道の展開」。ここも、輪読会で輪読しました。

「茶と禅」。輪読の途中です。

この本は如々庵老師の高い禅的な見解でまとめてあり、興味深いものです。

4 如々庵老師の思い出

如々庵老師には、私が若い時5月の記念式後の屋台のところで、「道具組みの会記を書くと、とても良いお茶の学びになります。」と一言おっしゃってくださいました。また別の機会には、「お茶は体にも良いが、楽しまなければいけない。」とも言われました。摂心会の朝のお茶席の道具組みには、一層心配りをするようになりました。会記に似た記録も続けています。最近少しお茶が楽しくなっています。ありがたいお言葉です。

5 茶禅一味の会のご紹介

茶道部の元で『茶禅一味の会』と位置付けられています。この会は茶禅一味参禅会・茶会を主に担当します。

21年度は、9月1日～3日に新潟でこの会を実施しました。

22年度は、7月1日～3日に北海道でこの会を実施いたしました。

茶禅一味の会の実施により新潟と北海道にも茶禅一味の会が出来、裾野が広がりがつあります。未知の地で知り合いを頼りに交渉するには時間が掛かりますが、合掌運動の一環として粘り強くやっております。

なお、今年度(23年度)も茶禅一味の会・茶会が予定されています。

合掌

著者プロフィール



佐藤妙珠(本名/米子)

昭和20年、栃木県生まれ。千葉大学教育学部卒業。市川市で小学校教諭。昭和43年、人間禅白田劫石老師に入門。現在、人間禅輔教師。